

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成する資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成する資質・能力
ま：学びをいかそうとする子（知） ※（知）のみ記載	〈自分づくりに関する力〉 〈問題発見・解決能力〉

### (2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>○学校教育目標具現化のために育成を目指す資質・能力と教育活動について検証し学力向上と児童指導充実に取り組みます。</p> <p>○信頼される学校づくりのために、学校広報の充実、地域連携、コンプライアンスの徹底、安全管理等に取り組みます。</p> <p>○効率的な学校運営を実現するために、人材育成、校内組織、環境整備、情報の共有化、校務のICT化等に取り組みます。</p>

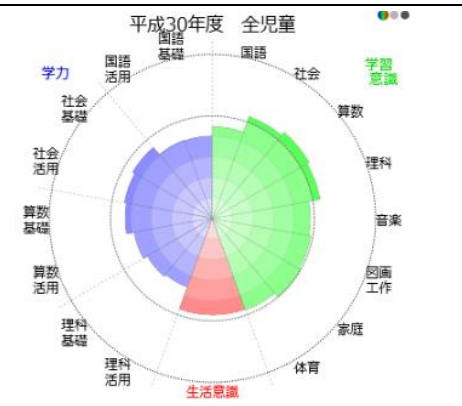
### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	<p>①主体的に学ぶ姿勢を育て学力向上を目指して少人数指導や授業研究会を実施する。</p> <p>②朝学習・朝読書を充実させ、主体的に学び、学びをいかす姿勢を育てる。</p> <p>③家庭との連携による学習習慣の定着を図る。</p>
担当	学力向上委員会

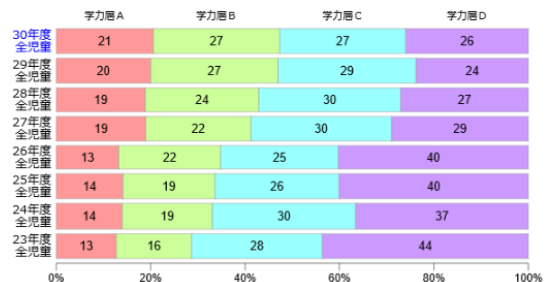
## 2 横浜市学力・学習状況調査からの実態把握

### (1) 学力の状況

- どの教科でも学習意欲が横浜市の平均である。社会、算数、理科は超えている。
- どの教科（4教科）にしてもA層の児童の正答率は100に近い。
- 算数では4年生以上は1年間、少人数で学習を進めたことで、自信をもって課題に取り組める子が多くいる。
- C、D（学力層）が学年の半分（以上）である。
- A層の子が決まっており、二極化の傾向にある。
- 基礎的内容から、発展的内容が多くなると取り組めなくなる子が多い。



学力、学習意識、生活意識：全学年



算数科学力層：30年度 第6学年

### (2) 今後の方向性

- 授業研究の実施⇒子どもが「主体的に学び合う」授業を目指して学校として研究を進めていく。
- 朝学習、家庭学習⇒学力向上委員会を中心にブロックや学年で「ねらい」をもって取り組む。

### 3 令和元年度 教育課程全体で育成する資質・能力と具体的取組

学年	育成する具体化した 資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1	<気づき>  <問題、課題を見つける力>  <感じたことを 言葉にする力>	○各教科において、操作活動や体験的な活動に重点を置く ○教師の意図的な発問や構造的な板書を意識して行う	
2	<相手の思いを 受け止めて聞く力>	○各学習において、感じたことや考えたことを、書いたり話したりして相手に伝える活動を取り入れていく。(相手意識) 人の話を最後まで聞く姿勢を意識させる。	
3	<互いの考えの違い への気づき>  <日常生活と比較する力>	○各教科においてペア・グループ・全体で意見交流する場を意図的に設定し、相手の考えやその良さに気づけるようにする。 ○導入を工夫したり、子どものつぶやきをひろい、全体共有したりすることで、学習と日常生活に関連があると気づけるようにする。	
4	<伝え合うことで自分の 考えを深化させる力>  <経験をもとに考える力>	○ノートに自分の考えを、言葉や図、絵で表し整理して、ペアやグループで伝え合うことで自分の考えを確かめたり、友達の考えを知ったりし、より良い考えを見出す。 ○生活経験や既習事項から学習課題を設定し、学習計画を立てる。	
5	<他者に明確分かり やすく伝える力>	○表現する力を身に付けさせるために、どの教科でも問題、課題に対して、自分の考えを表現する時間を設定する。 ○見通しをもって学習するために、学習計画を自分たちで決めさせる。	
6	<自分のめあてを決める力>	○ノートに表現し、ペアやグループで自分の考えを伝える時間を設ける ○学習以外の様々な場面で、自分の言葉で相手に伝える場面を設ける ・見通しを持って学習するために、問題や課題からめあてを設定させる	
個別 支援 級	<気づき>  <解決策を実行する力>	○場面を捉えて、その時々を考える時間をとる。 ○繰り返し指導をする。 ○できるだけプラスの声かけを心掛ける。	